

窪田委員（自民会議）

平成 27 年 3 月 5 日
教育長 答 弁 実 録
（ 教 育 委 員 会 ）

（問） グローバル人材育成のための英語教育について

グローバル社会に対応できる人材を育成するためには、社会に出て話すことができる「使える英語力」を身に付けることが重要と考える。

高校における英語教育については、かつての文法や読解中心の教育から、実践的なコミュニケーション能力を身に付けるため、英語を聞き、話す指導を重点的に行うとともに、海外の学校との姉妹校提携による交流を通じた英語力の向上に取り組んでいる。

高校段階における生徒の「使える英語力」の現状についてどのように把握し、来年度どのように取り組むのか、教育長に伺う。

（答）

文部科学省では、高校卒業段階で求められる英語力を英検準 2 級以上としているところでございます。

本県につきましては、この英語力を有する生徒の割合ですが、昨年度 31.9%から 6.6ポイント伸び、38.5%になってございます。

また、1時間の授業の中で半分以上英語による言語活動を行っている英語教員の割合ですが、昨年度 25.5%から 14.3ポイント伸び、39.8%になっております。

これらのことから、「使える英語力」を育成する取組につきましては一定の成果がみられるものの、更に向上を図る必要があるものと捉えております。

このため、英検準 1 級以上などの資格を取得していない県立高校の英語教員全員を対象に、英語指導力の向上を目的とした研修を複数年かけて実施をしているところでございます。

教育委員会といたしましては、次年度、一層の充実を図るため、外国語指導助手の効果的な活用等を含めた授業づくりに係る研修を更に進めますとともに、海外の姉妹校との交流や新たに作成いたします広島の歴史を紹介する英語教材の活用を促すなどの取組を積極的に推進していくことによりまして、グローバル化に対応できる英語力を備えた人材の育成に努めてまいります。